

基本的に、重み付投票法は促通性（正の連想）ですが、人工知能が生きて行く時には、抑制性の重み付投票も必要でしょう。a という事象では A が起き、b という事象では A は起きないということはざらにあることです。どうするか。投票ノード群の全投票値の総計で、各ノードの投票値を割って、全体の投票傾向を考慮した投票にしようとしたときに問題になります。負の確率というのもなんか変ですし、管理が大変です。絶対値の総計を全ノードの総合値としても良いですが。

もっとも簡単な解決は、A に対して、A の否定、すなわち $\neg A$  事象を起こせば良いかと。B からは A に負の投票をするのではなく、 $\neg A$  を投票する。A と $\neg A$  はカップリングしていて、発火の時に相互参照して、発火するかどうするか観るのです。 $\neg A$  で発火すると、 $\neg A$  からの連想の重み付投票を行うように設計しておくのです。この方法の方が人工知能としての完成度は高くなるでしょう。

おわり